



2015年5月入職

こみねけいこ
小峰恵子

「透析が好き」だと、胸を張って言える

挫折があったからこそ、今の自分がある

新卒で透析室に配属されたのですが、経験や知識不足に気づき、3年ほどで看護についての経験を重ねるため、腎臓内科への異動を希望しました。そこから結婚や出産があって医療業界から遠のいたのですが、その間も医療関連の本は捨てずに手元に置いていました。一番下の子どもが手を離れ、何か仕事に就こうと考えはじめたとき、頭に浮かんだのが透析への再チャレンジ。何もできずに終わったままでいたくなかったのです。

この間、「透析看護の仕事は好きですか？」という質問を受けたとき、私は二つ返事で「はい、好きです」と答えました。新卒の頃の私だと、好きだとは胸を張って答えられなかったでしょう。あの頃は与えられるものを追っているばかりで余裕がなく、透析が嫌になったこともありました。しかし今は、研修に参加したり独学で勉強したりと、透析を能動的に追いかけている自分があります。医療という枠を超えて心と心でつながり合えるこの仕事を、もっともっと追求していきたい。過去の挫折があったからこそ、今こうして前向きに取り組んでいるのだと思います。



SOSを出し合える関係性でありたい



看護師をはじめスタッフは、常に体調が万全なわけではありませんが、具合が悪いときもあり、それによって業務に支障が出るのは、患者さまにとって良くないことです。そこで無理に強がるのではなく、「ここをちょっと手伝ってくれない？」「代わりに行ってもらえますか？」とスタッフ同士で助け合えるような関係性でありたい。そこで私は、自分からあえて声をかけるようにしています。そうすると、まわりも「自分がサポートしてほしいときは声をかけて

みようかな」と思えるのです。もちろん気丈に振る舞うことが求められるケースもありますが、スタッフ同士で助け合う中で、患者さまが安心・安全に透析治療を受けることができるクリニックを目指しています。

声を上げやすい雰囲気をつくるために、少し空気が重いなと感じたときには、楽しい話をすることもあります。それが糸口になってムードが明るくなり、会話が活発になっていく中で改善の意見が出てくることも珍しくありません。これからもスタッフ間での円滑なコミュニケーションや助け合いの精神を大切にしながら、私が好きな透析の道を歩み続けていきます。

笑顔を大切に 関わる全ての方に
感謝と謙虚の心を忘れずに
安心・安全な看護を目指します

小峰 恵子